

戦略策定の趣旨

- ・産業振興計画に掲げる、「山で若者が働く、イノベーション創発型の国産材産地」の実現につなげるためには、森林資源の成熟に伴い増加する大径材の有効活用が重要
- ・現在はバイオマス以外の用途に限られる大径材の利用を拡大するため、将来的な加工施設整備や製品開発、販売促進などの方向性を示す「大径材利用戦略」を策定

各調査結果

- (1) 森林資源量調査(森林クラウド等)
○スギ大径材(30cm以上)が著しく増加

- (2) 原木市場調査 (3事業者)
○スギ平均単価は30cm以上から下落
大径材の製材向け流通量予測
(原木生産量85万m³(産振目標値)の場合) m³

	現状 (R5)	10年後	20年後	30年後
スギ	2.8万	9.7万	12.5万	15.3万
		+6.9万m ³	+2.8万m ³	+2.8万m ³
ヒノキ	1.2万	1.8万	2.7万	3.7万
		+0.6万m ³	+0.9万m ³	+1.0万m ³

- (3) 製材工場調査
(26社：原木消費量1,000m³/年以上)

- 大径材を効率的に加工可能な工場
30cm～36cmまでが4社
36cm以上が1社

- (4) マーケット調査 (県内外26事業者)

- 安定供給・価格・品質が課題
- ・大径材製品(構造材)
製品市場 強度や反りに不安感
プレカット等 エビデンスがあれば活用
- ・ツーバイフォー材等
国産材にシフトする動き

課題1 生産体制

- 1) 増加する大径材を加工するための製材加工能力が不足
- 2) 大径材製品の品質確保等が必要
- 3) 製品の安定生産・供給に必要な原木供給体制の構築が必要

課題2 製品

- 1) 大径材製品は、品質への根強い不安感(強度や反り)がある
- 2) 構造材など既存製品の価格競争が厳しい

課題3 販売体制

- 1) 外材需要の置き換えにはまとまった量の供給が必要
- 2) マーケットのニーズに合わせた製品供給が必要

戦略1 県内製材工場の大径材加工能力を引き上げる

- 1) 設備投資の促進
- 2) 製材や乾燥の技術力の向上
- 3) 原木安定供給に向けた川上から川中の連携強化

戦略2 大径材を原料として生産される製品の付加価値を高め、アイテムを増やす

- 1) 品質に関するデータ整備及び普及推進
- 2) 新たな製品づくりと付加価値の創出

戦略3 大径材を原料とした製品の販売を強化する

- 1) オール高知・事業者連携による販売の推進
- 2) 製材工場における販売戦略の策定等